

[9.1.1.梁の結合状態]を梁符号(ワイルドカード)で指定

本プログラムの説明

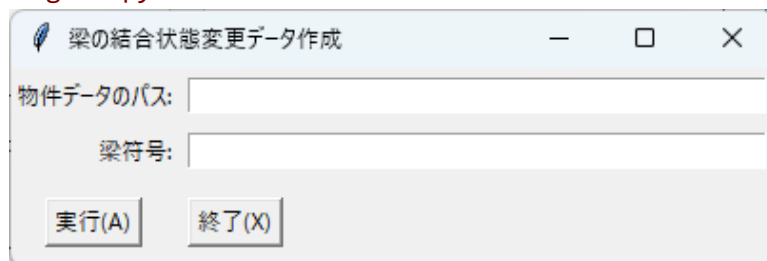
本プログラムは、『SS7』で大梁で小梁をモデル化する物件データにおいて、指定した梁符号の鉛直面内の結合状態（[9.1.1.梁の結合状態]）をピンに変更した物件データを新たに生成します。

符号の指定では、厳密に一致する符号で指定することも、カンマで区切って複数の符号を指定することも、ワイルドカードと組み合わせて指定することもできます。

本プログラムの実行方法

1. プログラム実行

1.1.「g2sb.py」を実行します。



1.2. 物件データのパス名と梁符号を入力します。

複数の梁符号をカンマで区切って指定できます。また、ワイルドカードが指定できます。

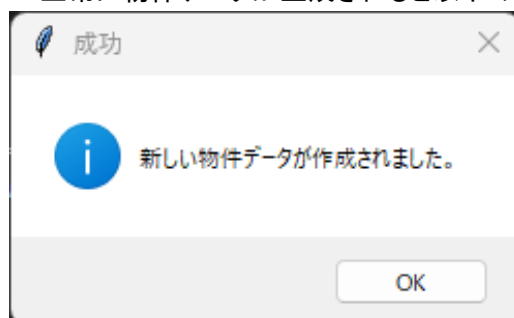
- ・\$ は英文字一文字（大小区別なし）[A-Za-z]
- ・# は数字一文字 [0-9]

1.3. [実行] ボタンをクリックします。

入力した梁符号に該当する符号がない場合は、その符号を示すメッセージを出力します。

この場合 [OK] ボタンをクリックすると処理は継続します。

1.4. 正常に物件データが生成されると以下のメッセージが表示されますので、[OK] ボタンをクリックします。



2. プログラム終了

「梁の結合状態変更データ作成」ウィンドウの[終了]ボタンをクリックして、プログラムを終了します。

3. 生成されたデータの確認

入力した物件データと同じレベルに、“_pin”という名前が付加されたデータが生成されます。

『SS7』を起動し、データを開いて確認してください。

注意事項

-
- 本プログラムは『SS7』Ver.1.1.21.2で動作確認を行いました。
 - [7.15.一本部材-2.梁]のデータは考慮していません。生成されたデータから調整してください。
 - 指定した物件データ内に「inp_all.csv」を出力します。同名のCSVファイルがあっても上書きします。
 - 結合状態を生成または変更した物件データは、指定した物件データのフォルダ名に「_pin」を付加したフォルダ名になります。すでに同一名称のフォルダがあれば生成(上書き)しません。

『Op.Python実行』の設定手順

Ss7Pythonライブラリを使用するための設定手順です。

1. 『SS7』を起動し、[ツールー環境設定－Op.Python実行]画面を表示します。
2. “利用可能なPython言語のバージョン”を選択し、[デスクトップへコピー]ボタンをクリックします。
3. デスクトップにある「Python」フォルダごと、「src」フォルダにコピーします。

必要な外部ライブラリ

必要な外部ライブラリはありません。

著作者

Copyright (C) 2026 UNION SYSTEM Inc.

ライセンス

本プログラムは MIT License に基づいています。「LICENSE」を確認してください。